

# 埋蔵文化財課年報 〈16〉

平成23年度



財団法人 松江市教育文化振興事業団

# うしろ ぎこ い せき 後 廻 遺 跡



調査地位置図

1. 所在地 松江市上乃木三丁目609番1、外3筆
2. 調査面積 650㎡
3. 調査期間 平成23年4月18日～6月20日
4. 調査原因 (仮称)上乃木高齢者専用賃貸住宅新築工事
5. 遺跡の種別 集落跡
6. 遺跡の年代 弥生時代・古墳時代
7. 調査の概要 後廻遺跡は宍道湖から西に500mほど内陸に入った単独丘陵の頂部付近に位置する集落跡である。検出した遺構は竪穴建物跡、

掘立柱建物跡、柱穴列、溝、柱穴などで、掘立柱建物跡の中には布掘り構造を用いた弥生時代後期の建物跡が3棟見ついている。この布掘り掘立柱建物跡は県内では今まで24例しか確認されていない希少な建物跡であり、それらが3棟も検出された当該地は、集落内において特別な場所であったとも考えられる。竪穴建物跡は弥生時代中期末～後期初頭を1棟、古墳時代前期を2棟検出しており、このうち古墳時代のものには土坑の周りに砂利が敷かれる特異な施設を伴っているものもあった。遺物は弥生土器(中期末～後期)、土師器(古墳時代前期)や石鏃、砥石の他、土師器の土器焼成に伴う壁体の残骸と思われる焼粘土塊が出土している。

本遺跡が見つかった上乃木地区付近はこれまで遺跡が数少ない地であったが、本調査によって、この地区の弥生・古墳時代の姿を一つ解明できたことは、上乃木地区に留まらず松江地域の当該期の集落像を考える上で貴重な成果と成り得よう。(落合昭久)



調査地 完掘状況

# おう じ ざか い せき 王 子 坂 遺 跡



調査地位置図

1. 所在地 松江市上乃木五丁目483番
2. 調査面積 1,093㎡  
(北側調査区 672㎡・南側調査区 421㎡)
3. 調査期間 北側調査区平成23年4月11日～6月17日  
南側調査区平成23年10月3日～11月4日
4. 調査原因 国立病院機構松江医療センター外来管理診療棟等建替整備工事
5. 遺跡の種別 散布地
6. 遺跡の年代 縄文時代から近世
7. 調査の概要 王子坂遺跡は、松江市街地南郊に所在し、

調査前は更地であった。調査地北側には通称「檜山」と呼ばれる標高65mの低丘陵が所在し、調査地は以前、その檜山から南西方向に派生する低丘陵と低丘陵との間、谷部の始まりのような所に位置する。調査は当初北側調査区のみであったが、建替工事計画の一部が変更になったため、南側調査区を追加調査することとなった。

調査の結果、谷部の遺物包含層を確認し、その谷の両側から掘立柱建物3棟、杭列3本、集石遺構1基、溝状遺構1本、数基のピットを検出した。建物や杭列は、ピット内から遺物が出土していないことから時期は不明である。遺物包含層からは、縄文土器から近世・近代の陶磁器まで幅広い時期の遺物が出土し、特に古墳時代中期頃の土師器が多くみられた。

今回の調査から、本調査区周辺において人々の生活が縄文時代晩期頃に始まり、古墳時代中期にひとつのピークを迎え、その後も中世から近世・近代と引き続いてきたことが明らかになった。本調査区周辺は遺跡が希薄な場所であり、松江市南郊における集落遺跡の状況等の解明に重要な成果を提供するものである。

(廣濱貴子)



北側調査区完掘状況 (南西から)



南側調査区完掘状況 (北西から)

# スモト <sup>い</sup> <sup>せき</sup> 遺跡



調査地位置図

1. 所在地 松江市古曾志町864-1、865-1
2. 調査面積 152㎡
3. 調査期間 平成23年6月1日～7月5日
4. 調査原因 個人住宅新築工事
5. 遺跡の種別 集落跡
6. 遺跡の年代 弥生時代終末から古墳時代初頭、古代、中世
7. 調査の概要 調査地は、島根半島北山山系の低丘陵が平野に続く裾部分である、標高6.1～7.7mの南緩斜面に位置する。遺跡周辺は丹花庵古墳（国指定史跡）をはじめ、古墳や横穴墓の集散地である。

調査の結果、掘立柱建物、建物と柱穴列を伴う加工段、土坑、溝、不明遺構、その他多数の柱穴とピットを検出した。遺物は弥生時代中期後半を上限とし、弥生時代終末から古墳時代初頭、古墳時代終末から古代、中近世の土器片などが出土した。

遺跡の初現は、確認された溝やピットなどから、弥生時代終末から古墳時代初頭頃と考えられる。西後遺跡などとともに、この地域の当該期集落の様相を検討するうえで貴重な資料である。古墳時代終末から古代にかけて、加工段や溝、柱穴などが確認され、低丘陵に集落を営む遺跡の拡がりが見られる。その後は耕作地としての利用が進むようであるが、古代以降と思われる1×1間の掘立柱建物3棟が確認された。同じ場所に建て替えられており、仏堂などの特異な性格が想像される建物である。

(園山 薫)



完掘状況（東から）



# 江分遺跡



調査地位位置図

1. 所在地 松江市竹矢町526、526-2、527、529-3、609、2610-2
2. 調査面積 340㎡
3. 調査期間 平成23年4月18日～7月27日
4. 調査原因 道路建設

(八重垣神社竹矢線竹矢工区新世紀道路(生活関連)事業)

5. 遺跡の種別 散布地
6. 遺跡の年代 弥生時代中期～中世
7. 調査の概要 江分遺跡は出雲国分寺金堂中軸線から東へ

200mの地点に所在する。最も国分寺に近い調査区の地山直上から弥生時代中期末の甕が炭を伴って出土し、その東方では弥生時代後期末の深く広い掘り込みが埋め立てられた遺構や、古墳時代後期を中心とする粘土の採掘跡が検出された。国分寺に関連する遺構は検出されず、奈良～平安時代の遺物は少量しか出土しなかったが、上層の遺物包含層から木簡破損品1点と墨書土器が出土した。このことから、地形的にやや高くなっている本遺跡の北方に国分寺の寺域が広がり、関連施設が存在する可能性が高いものと考えられる。(江川幸子)



粘土採掘坑検出状況

まつ えじょうか まち い せき ほ ろ まち  
松江城下町遺跡 (母衣町68)



調査地位置図

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 所在地   | 松江市母衣町68番地   |
| 2. 調査面積  | 2,674㎡   |
| 3. 調査期間  | 平成23年10月28日～平成24年3月31日                                       |
| 4. 調査原因  | 広島高裁松江支部松江地家簡裁判所建設工事   |
| 5. 遺跡の種別 | 城下町遺跡  |
| 6. 遺跡の年代 | 江戸時代   |
| 7. 調査の概要 | 松江城下町遺跡(母衣町68)は松江城から東へ200mほどの場所に位置する江戸時代の城下町遺跡である。江戸時代には武家屋敷 |

が立ち並んでいた場所であり、現存する古絵図から堀尾期(1607～1633年)には長谷川氏(400石)、窪田氏(350石)、武侯氏(300石)、岩崎氏(200石)の屋敷地であったことが知られている。今年度の調査では第1～2遺構面の調査を行い、平成24年度には第3～5遺構面の調査を行う予定である。本年度の調査では第2遺構面(掘削深70～80cm、標高1.5～1.6m)から礎石建物跡を検出した。礎石建物跡の規模は南側が近代建物の基礎によって消失していたことから明確にはできないが、東西9m、南北10.5m以上であったと想定される。礎石には松江城の石垣に多く見られる大海崎石が使用され、江戸時代の建物跡の特徴をもつものであったが、同遺構面の出土遺物から明治時代～幕末あたりの礎石建物跡と考えている。継続して行う平成24年度の調査では、これより下層の松江城下町形成時の遺構面まで掘り下げる予定である。江戸時代の松江城下町の姿を明らかにしていく上で、注目する調査地の一つである。(落合昭久)



礎石建物跡検出状況

まつ えじょうか まち い せき みなみた まち  
松江城下町遺跡 (南田町136-13外)



調査地位置図

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 所在地   | 松江市南田町136-13番地外  |
| 2. 調査面積  | 465㎡   |
| 3. 調査期間  | 平成23年10月17日～平成24年3月31日                                     |
| 4. 調査原因  | 松江市城山北公園線都市計画街路工事  |
| 5. 遺跡の種別 | 城下町遺跡  |
| 6. 遺跡の年代 | 江戸時代   |
| 7. 調査の概要 | 調査地は、城山北公園線沿いの南側、市道南田町南北線と昭和橋間の東寄りに位置し、江戸時代の絵図でみると城下町のほぼ東端 |

部分にあたる。堀尾・京極期絵図では区画は示されているが家主の名前の記載はない。松平期になり、筆頭家老である大橋茂右衛門の広大な屋敷地が設けられ、その敷地の一角に大橋家の与力屋敷が置かれていた。調査地は大橋家に仕えた与力(陪臣)の屋敷地にあたる。

前年度に調査区西隣を調査終了し、今回は引き続き東側調査区の調査を行った。結果、7面の遺構面を確認し、今年度は1面～4面までの調査を実施した。

主な遺構として、礎石建物・掘立柱建物・屋敷境を検出した。松平期において、与力屋敷は掘立柱建物から礎石建物へと移り変わっていくことが明らかとなった。また、屋敷境は、初期段階では幅広な素掘り溝であったが、時代が下るごとに溝幅が徐々に狭くなっていき、最終的には石垣を構築していた。さらに、屋敷境の復元から屋敷地の北側間口が21m(10間半)であることが判明した。

(小山泰生)



第4遺構面 松平期の掘立柱建物跡(北東から)



まつ えじょうか まち い せき とのまち  
松江城下町遺跡 (殿町198-2外)



調査地位置図

- |          |   |
|----------|---|
| 1. 所在地   | 松江市殿町198番地2外  |
| 2. 調査面積  | 117㎡  |
| 3. 調査期間  | 平成23年9月22日～12月28日   |
| 4. 調査原因  | 松江市城山北公園線都市計画街路工事   |
| 5. 遺跡の種別 | 城下町遺跡   |
| 6. 遺跡の年代 | 江戸時代  |
| 7. 調査の概要 | 調査地は、松江城大手前から東進する県道城山北公園線（通称：大手前線）沿いの北側に位置し、江戸時代の絵図では上級武士 |

の屋敷地となっていた区画にあたる。

現地表面（標高2.1m）下、標高0.8mの旧地表面まで5面の遺構面を確認した。土層の堆積状況から、堀尾氏による城下町の造成が始まってから現代まで、1.3mほど嵩上げが行われていたことがわかった。

主な遺構として、礎石建物・掘立柱建物・柱穴列・井戸・土坑・溝・木樋などを検出した。

木樋は、丸太材で作られたもので、江戸時代後期以降の導水施設と考えられ、県内では類例をみない貴重な資料である。また、調査区の東端で、城下町造成の初期段階に掘削されたと考えられる素掘りの大溝（南北溝）の一部を検出した。溝は現道路に沿う形で、約2mの深さまで急勾配に掘り込まれ、溝幅は2m以上になるものと推測される。さらに、城下町造成前の旧地表面（黒褐色粘質土）に踏み込まれた人の足跡が見つかった。城下町造成直前あるいは直後の様相を示すものである。（園山 薫）



第1遺構面 木樋検出状況（南から）



まつ えじょうか まち い せき ほ ろ まち  
**松江城下町遺跡 (母衣町45外)**



調査地位置図

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 所在地   | 松江市母衣町45外  |
| 2. 調査面積  | 32.0㎡  |
| 3. 調査期間  | 北側調査区平成23年7月23日～9月13日  |
| 4. 調査原因  | 松江市城山北公園線都市計画街路工事  |
| 5. 遺跡の種別 | 城下町遺跡  |
| 6. 遺跡の年代 | 江戸時代   |
| 7. 調査の概要 | 本調査地は、史跡松江城から東方へ約400m離れた地点で、東西に延びる城山北公園線(大手前線)沿いの北側、裁判所西側交差点 |

の西側角地に位置する。江戸時代の城下町絵図によると、堀尾期には役職、馬廻りの野村孫太郎(禄高：500石)、京極期には小姓衆組の赤林権左衛門(禄高：700石)、松平期(江戸時代後期)には中老から家老になった黒川又左衛門(禄高：1000石)の屋敷があったところである。

調査の結果、6面の遺構面を確認した。第1、2面は出土遺物から、近現代の遺構面であった。第3遺構面からはピットを、第4遺構面からは植栽痕やピット、礎石を検出した。植栽痕は10箇所確認でき、樹皮から松や桜の木と思われた。第5遺構面からは、土坑または溝と思われる大きな落ち込みを検出した。埋土は有機質を多く含む土層で、遺物は木製品が出土している。第6遺構面からは、素掘りの大溝を確認した。完掘状況から、東西溝の底部は、南北溝西側0.4～0.5m手前で終結し、底面標高から、南北溝は北側へ、東西溝は西側へ傾斜していることがわかった。溝の一部は第5遺構面の大きな落ち込みによって削平されていたため、全容を解明することはできなかったが、両溝の底面は繋がっていないことが確認された。今回の調査で、角地部分の大溝の在り方が少しは解明され、今後、周辺の調査成果も合わせて検討すれば、より一層松江城下町を知ることができると思われる。(廣濱貴子)



素掘りの大溝  
(北から)

まつ えじょうか まち い せき ほ ろ まち  
松江城下町遺跡 (母衣町180-28・29)



調査地位置図

1. 所在地 松江市母衣町180-28・29番地
2. 調査面積 81㎡(調査2区)
3. 調査期間 平成23年4月18日～5月20日
4. 調査原因 松江市城山北公園線都市計画街路工事
5. 遺跡の種別 城下町遺跡
6. 遺跡の年代 江戸時代
7. 調査の概要 調査地は、史跡松江城から東へ約600m離れた地点で、米子川に架かる米子橋の西岸に位置する。江戸時代の絵図で見ると、周辺は上級武士の屋敷地となっていた。また、明治時代以降には学校が建っていたことが知られる。調査は前年度終了した1区(東側調査区)に引き続き、2区(西側調査区)の調査を実施した。結果、現地表面(標高2.0m)下、標高0.3mの旧地表面までの間に6面の遺構面を確認した。

主な遺構として、礎石建物・掘立柱建物および素掘りの大溝を検出した。大溝は調査区の南側、大手前線道路と並行するよう東西に検出し、江戸時代初期の堀尾氏による城下町造成段階に掘削されたものと考えられる。さらに掘り下げ、最終遺構面において、旧地表面である黒褐色粘質土を水田耕作土として使用した水田跡を検出した。水田跡には、畦畔や足跡が良好な状態で遺存しており、城下町造成直前あるいは直後の様相を示している。これらの調査成果から、松江城下町遺跡に広くみられる黒褐色粘質土(旧地表面)＝水田構成土層である可能性を示す結果となった。

(小山泰生)



第6遺構面 城下町造成直前あるいは直後の水田跡(東から)

まつ えじょうか まち い せき ほ ろ まち ほ か  
**松江城下町遺跡 (母衣町100外)**



調査地位置図

- |          |   |
|----------|---|
| 1. 所在地   | 松江市母衣町100番地外  |
| 2. 調査面積  | 470㎡  |
| 3. 調査期間  | 平成23年11月14日～平成24年2月22日  |
| 4. 調査原因  | 分譲マンション新築工事   |
| 5. 遺跡の種別 | 城下町遺跡   |
| 6. 遺跡の年代 | 江戸時代  |
| 7. 調査の概要 | 調査地は松江城の南東約700mに位置する。江戸時代の絵図を現在の地図の縮尺に当てはめると、堀尾期（1607～1633年）には重 |

臣であった「堀尾<sup>いなば</sup>因幡」の屋敷地に比定されると考えられる。

調査を行った遺構面は自然堆積層を含め4面であり、新しい順に第1～4遺構面とした。第2遺構面からは攪乱が著しく、江戸時代の面は確認出来なかった。第2遺構面では、調査区北側で屋敷境の可能性のある東西方向の溝と柱跡が検出されたが、屋敷建物の跡は検出されなかった。第3遺構面は江戸時代に造成された最初の遺構面であることから堀尾氏の遺構面と考えられる。検出された特筆すべき遺構として、素掘りの溝SD05が挙げられる。東西の屋敷境と考えられる遺構であり、幅が20mを測る巨大な溝である可能性が高い。その他、調査区北側で南北の屋敷境である可能性の高い素掘りの溝が検出された。この面でも建物跡は確認出来なかった。第2、3遺構面ともに建物跡が削平されたことも考えられるが、屋敷地内の空閑地部分の調査を行った可能性もある。

(古藤博昭)



SD05土層断面 (南東から)



SD05土層断面西部 (南から)



まつ えじょうか まち い せき  
松江城下町遺跡 (工事立会)



調査地位置図

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 所在地   | 松江市殿町、母衣町、南田町                                  |
| 2. 調査期間  | 平成23年4月7日～平成23年12月13日<br>平成24年2月10日～平成24年3月23日 |
| 3. 調査原因  | 松江市城山北公園線都市計画街路工事                              |
| 4. 遺跡の種別 | 城下町遺跡  |
| 5. 遺跡の年代 | 江戸時代   |
| 6. 調査の概要 | 前年度に引き続き、道路整備に伴う電線共同溝などの工事に立ち会い、36箇所を調査を行った。   |

その成果として、今までの調査でも確認されているが、城山北公園線の南北で2～3段組の石組み水路や、城下町造成時に掘り込まれたと考えられる素掘りの大溝が検出されている。石組み水路は、場所によっては攪乱を受けて消失していたり、現在でも側溝として機能していたり、また、コンクリートの水路に沿う形で残されている場合もある。今回の調査では、角地において水路の曲がり部分が検出された。(MJR247)

素掘りの大溝については、松江地方裁判所南の道路側溝の北側から北に向かってに落ち込む掘り込みが確認された。(MJR263、264) また、裁判所の南西交差点付近の電線共同溝マンホール設置工事では、南北方向の素掘りの大溝が検出された。(MJR240)

※「MJR…」は立会調査の地点番号。

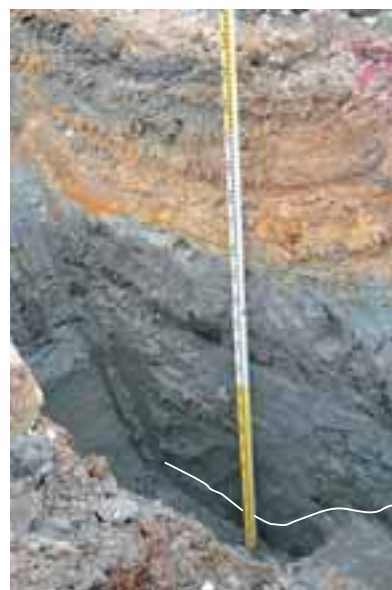
(古藤博昭)



石組み水路 (MJR247)



素掘りの大溝断面 (MJR240)



素掘りの大溝断面 (MJR263)